

野田物語

棋士・中村勇太郎⑤
茅野九段が語る
中村師匠の印象



中村勇太郎九段に師事された茅野直彦九段(日本棋院で撮影)

茅野直彦九段は、満州生まれ、昭和21(1946)年、上花輪に引っ越してきました。ちょうど、小学校3年生の時でした。

中央小学校に通いますが、5年生のころに、となりのおじいさんが囲碁をやっていたのを見よう見まねで覚え、たまたま、近所で中村勇太郎九段が碁会所を開いていたことから、中村九段のところへ通いながら、囲碁の指導を直接受けたそうです。

「私は昭和25年に中村先生に入門し、日本棋院の院生になりました。普通、先生のもとへ入門すると、直接指導していただけるのは数局ぐらい

ですが、私は数多く教えていただくことができました」と茅野九段は回顧します。

「また、愛宕駅近くの茂木房五郎さんの所へも通い、囲碁を教わりましたね。お手伝いの方が、小学生の私を自転車で迎えに来てくださったのです。

つまり、私には中村九段と茂木房五郎さんと、二人の師匠がいたこととなります。とても素晴らしい環境でしたね」

その後、茅野九段は第二中学校を卒業して東京に出て、高校に通学しながらも、日本棋院の院生として、囲碁の勉強に、当時、高輪にあった棋院へ通いました。

当時は棋譜(打った場所をすべて書いた対戦の記録)がなかったの

で、対局を見て「手」を覚えてたそうです。中村九段の印象をお聞きすると「口数



千代田区にある日本棋院市ヶ谷本院

は少なく、怒らない方で。一手打つと、『こちらの手もあるんじゃないだろうか、あちらの手もあるんじゃないだろうか』といったアドバイスをくださいました。懐が深く、大変な人格者でした」

また、「囲碁はほとんどの人が趣味で楽しんでいるものが、プロ棋士となれば、生活の糧としなくてはならない。それは大変なことでもある」と、中村九段に言われたことが心に残っていらつしやるそうです。

中村九段との対局は三局あったそうですが、一局も勝つことはできなかったという茅野九段。

優しさの中に、勝負の厳しさを弟子たちに教えていらつしやいました。 ※文中敬称略(5月1日号へつづく)

【取材協力】(財)日本棋院出版部

【参考資料】月刊「とも」

4月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科=9時~22時(ただし16時~19時は除く)

内科=9時~16時(19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
5日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	うちだ内科クリニック(☎7127-8181)	小張総合病院(☎7124-6666)
12日(日)	野田中央病院(☎7122-6161)	スズキ皮膚科内科クリニック(☎7126-2285)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
19日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	あら山こどもクリニック(☎7129-7149)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
26日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	むらた内科循環器科クリニック(☎7127-8800)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
29日(水)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)	梅郷痛みと内科のクリニック(☎7126-1900)	小張総合病院(☎7124-6666)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)でご確認ください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科)=19時~22時(毎日)

▼歯科診療=9時~12時(休日)

▼新年度がスタートしました。入学や引っ越しなどの環境の変化にあわせて、日々の生活を見直される方も多いと思います▼市でも、昨今の社会情勢の変化に対応しながら、より良いサービスをお届けするため、職員の削減や徹底した経費の見直しを進めつつ、緊急雇用対策や、中心市街地の活性化などに取り組んでいきます▼また、江川地区では、昔ながらの米づくりを行う水田型市民農園がいよいよスタートします。里山の自然の中で、多くの参加者の元気な声が響き渡ることでしよう。(あ)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり